

地域デザインフォーラム・ブックレット

No.5

イノベイティブな板橋をつくる

— 現代産業集積の研究 —

大東文化大学・板橋区
地域デザインフォーラム

地域デザインフォーラム ブックレット刊行にあたって

大東文化大学と板橋区は 2000 年 5 月から、地域連携研究「地域デザインフォーラム」を始めました。これは大学と行政が連携して、地域の政策課題を共同研究するというものです。今まで、これらの研究成果は中間報告書、最終報告書という形でまとめて、発表してきました。

この度、私たちの研究成果を「ブックレット」という形で刊行することになりましたが、これには二つの理由があります。一つは、私たちは今までの共同研究を情報の共有化と情報公開といった方針で進めてきました。従いまして、研究成果は研究員だけでなく、広く一般の方々にも知っていただきたいということです。もう一つは、地域の課題を連携して解決していくためには、今地域が抱える課題を地域の方々に知っていただき、そのテーマに関する基礎的な知識を身に付けることも大切なことだと考えたからです。

今までの報告書と違い、テーマごとにコンパクトにまとめたつもりです。このブックレットが、地域の課題解決のために活用されることを期待しています。

2004 年 3 月

地域デザインフォーラム 研究員一同
(代表 中村昭雄 大東文化大学教授)

目次

はじめに	1
第1章 板橋の産業の概要	4
第2章 集積の基礎理論	21
第3章 産業集積の類型化	36
第4章 産業クラスターの理論的検討	
第1節 産業クラスター理論	51
第2節 産業集積から産業クラスターへ	61
第5章 板橋型クラスター・モデルの構築	
第1節 板橋区の商業集積の新しい枠組みを求めて —商業集積モデルの検討と商業集積の戦略的展開の方向性の探求—	76
第2節 環境クラスター・モデルについて	102
おわりに	120

はじめに

「地域デザインフォーラム」の第Ⅲ分科会である産業振興分科会では、「イノベティブな板橋をつくる—現代産業集積の研究—」というテーマの下に、2004年3月まで2年間を費やして共同研究を行ってきた。その成果の一つがこの共同論文である。

第1章では、板橋区の産業集積をテーマとするには、まず区内の産業の実情を的確に把握しておかなければならないとの認識から、「板橋の産業の概要」を歴史的に捉えるとともにその現状分析に主眼が置かれた。その結果、特に板橋区の工業は独自の発展を示し、従業員数や製造品出荷額では都内で「大田区」に次ぐ「モノづくりの町」として現在でも発展をしている重要な工業集積地域であること、先端産業比率では都内の平均を大きく上回り、特に光学機器の割合が突出していること、労働生産性は精密機械や輸送用機械では都区部の平均を上回っているが、最も高い割合を占める出版・印刷では平均を大きく下回っていること、等々が明らかとなった。

第2章では、産業集積を単に理論的にだけでなく、実証的に分析するうえでも欠かすことのできない「集積の基礎理論」を展開する。まず空間経済の理論として発展してきた立地理論の史的発展とその現代的アプローチが取り上げられ、次に企業の立地行動に焦点が合わせられ、立地行動の背景にある考え方やその基本原理が論じられる。さらに、企業の立地行動の結果として生じる産業集積が問題とされ、集積のプロセス、集積を促進する要因、および集積の効果が検討される。最後に、その政策的インプリケーションについて言及がなされている。

第3章では、「産業集積の類型化」が問題とされる。まず産業集積のタイプを理論的・実証的にさまざまな視覚から分析・分類する。次いで、消費の多様化に適應して多用な製品を迅速に提供するとともに集積全体を安定的・持続的に維持するのに適した産業集積のタイプとして、都市型・中小零細企業によるネットワーク

型の、資本財を扱う特定加工の専門企業群によって形成される集積を挙げ、その具体的な活性化モデルのケースとして城南地域の産業集積とシリコンバレーを取り上げて詳細な分析を加えている。さらに、そうした分析を通じて産業集積の活性化の条件を探り、今後の方向を模索する。

第4章は従来集積論を発展させてクラスター理論を展開する。そのための序曲として、「産業クラスターの理論的検討」がなされる。第1節では、マイケル・E・ポーターの『競争戦略論』をベースに彼の「産業クラスター理論」が検討される。まずポーターに従ってクラスターとは何かが定義され、それに基づいてクラスター概念の特質が議論される。次いで、クラスターによって獲得される競争優位の形についての分析がなされ、さらにクラスターのもつ現代的な意味が論じられる。第2節は「産業集積から産業クラスターへ」と題して、従来型の産業集積から新しい型の産業集積（産業クラスター）への今日的な展開についてさまざまな角度から分析を行っている。産業クラスター形成の主役は地域社会に立地する中小企業群であり、これらの中小企業を中心に大学・その他の研究機関や公共団体などがネットワークを形成し、イノベティブな活力ある発展を目指そうとするのが新しいタイプの産業集積なのである。こうした認識に基づいて、さらに進んで区内の企業や産業を取り上げながら、産業クラスター形成の現状についての実証的な分析にも取り組んでいる。

第5章では、「板橋型クラスター・モデルの構築」と題して、「商業」と「環境」という二つの側面からの産業クラスター試論が展開されている。第1節は、「板橋区の商業集積の新しい枠組みを求めて」、まず小売商業集積モデルを商店街とショッピング・センターの2タイプの商業集積から検討し、併せて板橋区の商業集積の現状とあり方を論じる。次いで小売競争行動を小売機能の側面から議論するとともに、さらに板橋区の主要商業集積の現状と課題を「仲宿商店街」と「ハッピーロード大山商店街」を取り上げて検討し、最後に板橋区の商業集積の形態とあり方についていくつかの重要な示唆を与えている。第2節では、環境都市宣言をして

いる板橋区の産業クラスターを論じるにふさわしい「環境」をキーワードとする「環境クラスター・モデルについて」の議論が展開されている。まず「環境関連事業とそれを支援する事業をビジネス化し、さらに進んで環境イノベーションを創出するために集積した企業、行政、および各種研究機関の総体である」と定義される環境クラスターの形成の社会的・経済的背景が論じられ、次いで環境クラスターの意義とその性質が詳細に検討される。さらに環境クラスター形成の事例がいくつか挙げられて検討を加えられ、最後に板橋区における環境クラスター形成の試論が展開される。

この共同研究が板橋区の産業集積についてのさらなる理論的・実証的研究への足がかりとなるとともに、板橋区の産業振興行政に何らかの政策的インプリケーションを与えることができれば、望外の喜びである。